

平成 30 年度 事 業 報 告 書  
平成 30 年度 計 算 書 類 等

自 平成 30 年 4 月 1 日  
至 平成 31 年 3 月 31 日

公益財団法人 早期胃癌検診協会



# 目 次

概 況	1
-----	---

## 事業報告書

A 研究事業	
I 共同研究事業	4
II 個別研究事業	9
III 各種研究会	12
1 早期胃癌研究会	
2 大腸研究会	
IV 研究成果の発表	19
1 論文・著書	
2 学会活動	
3 研究会・研修会活動	
4 共同研究	
B 研修事業	25
I 平成消化器懇話会の開催	
C クリニック運営事業	26
D 啓発事業	40
E 法人運営	41

## 計算書類等

A 貸借対照表	45
B 正味財産増減計算書	46
C 財務諸表に対する注記	48
D 財産目録	50



## 概 況

日本経済は、好調な企業収益を背景にした設備投資の増加や雇用・所得環境の改善によって、戦後最長と並ぶまで緩やかな景気回復を続けている。今後は、物価が再び緩やかに上昇し持続すること、労働生産性を向上させることが重要な課題である。

一方、検診業界は、近年と同様に人間ドックの受診者数自体は微増傾向にあるが、健診単価は伸び悩むことで、市場は横ばいで推移するという厳しい経営環境におかれている。また、大腸がんや肺がんの増加などの疾病構造の変化や ABC 検診をベースとした胃がんのリスク検診への移行などの変化がみられ、検診のあり方が問われている。

平成 30 年度は、受診者の確保に努めるとともに、新たな社会ニーズに対応するため、マーケティング活動及び収益向上に向けた活動の企画推進を目的として、事業推進室を新たに設置した。平成 31 年度は、新規顧客の獲得を目指す営業活動を活性化し、多様化するオプション検査のニーズに対応するため、開始した大腸 CT 検査等の新たな検査を拡大して、協会の安定的な運営を確保していかなければならない。

当協会が平成 30 年度に実施した事業は、以下のとおりである。

研究事業については、共同研究・個別研究ともに一定の成果を上げることができたので、引き続き、積極的に研究事業に取り組んでいく。

研修事業のひとつである地域の開業医等を対象とした平成消化器懇話会については、2 回開催した。

クリニック運営事業については、検診のうち巡回検診は前年度よりわずかに減少したが、施設内検診（当協会施設で実施する検診）は前年度より増加し、全体として検診規模は微増となった。一方、外来診療の患者数は前年度よりわずかに減少した。

啓発事業については、保健指導者セミナーを開催し、多くの方々の参加を得た。また、医療に関するタイムリーな話題を取り上げたニュースレターを 2 ヶ月に 1 回の割合で計 6 回発行した。

今後とも当協会は、基盤事業であるクリニック運営事業（検診・診療）の規模の維持・拡大に努めるとともに、研究事業、研修事業及び啓発事業を積極的に展開し、もって都民のがん対策及び健康増進に貢献する。



# 平成 30 年度 事業報告書

## A 研究事業

当協会は、検診・診療を通じ、早期胃がんを主として大腸や食道の早期がんを含めた消化器系疾患の学術的かつ診断技術的な研究を行っている。

研究事業には、研究本部の研究室メンバーが共同して行う共同研究事業、協会職員が個別に研究テーマを設定して研究を行う個別研究事業及び学術研究会を開催し支援する事業がある。

### I 共同研究事業

共同研究事業は、研究本部に所属する研究室がその中長期目標を達成するために行う研究事業である。平成 30 年度の研究テーマは、平成 29 年度からの継続のものが 5 テーマ、新規のものが 1 テーマ、合計で 6 テーマである。

なお、それぞれの研究テーマについて、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において、テーマ設定、成果等の評価を行っている。

#### <研究テーマ>

- 1) 効果的な特定保健指導に関する研究（内臓脂肪面積データの解析）（継続）  
（研究本部保健指導研究室）

健康保険法改正に伴い平成 20 年から開始された特定健診におけるメタボリック症候群該当者に対する特定保健指導の有効性を高める方策について研究するのが本研究の目的である。

平成 25 年度は 360 名を内臓脂肪面積測定機 DUALSCAN で内臓脂肪面積を測定した。内臓脂肪の中央値は 84.65 cm<sup>2</sup>で、100 cm<sup>2</sup>以上の人は 28%で、内臓脂肪面積と BMI は中等度の相関、腹囲とは強い相関があった。平成 26 年度は、132 例で検討した結果、100 cm<sup>2</sup>以上では 76%がメタボ判定であった。その後は、特定保健指導対象者の保健指導前後の内臓脂肪面積と体重、腹囲、血圧の変化との関係を検討して、さらに内臓脂肪面積の減少と血圧の減少と関係があることを報告してきた。

平成 30 年度は、平成 29 年に導入した腹部 CT による内臓脂肪面積と体重の相関係数を検討した結果  $r=0.65$  と、それ以前に用いていた DUALSCAN での相関係数  $r=0.43$  よりも高い関連性が得られた。腹部 CT 測定を実施した 10 名の保健指導前後での検討の結果、体重は  $-4.2\text{kg}\pm 3.6\%$ 、内臓脂肪面積は  $-5.7\pm 4.8\text{cm}^2$ であった。平均減量数は体重の  $-5.3\pm 2.4\%$ で減量に成功した。この数値は日本糖尿病学会が提唱する多くの対象者が達成可能で臨床検査値が改善する減量目標 3～5%を達成していた。

平成 31 年度も研究を継続して、特定保健指導の効果を検討する。



2) 強力な酸分泌抑制薬を用いた *H.pylori* 除菌治療の有用性の検討 (継続)  
(研究本部がん対策研究室)

速やかに強力な酸分泌抑制効果があるプロトンポンプ阻害薬であるラベプラゾール：RPZ (パリエット®) を用いたヘリコバクター・ピロリ除菌療法の有用性を平成 26、27 年度に検討してきた。平成 27 年 3 月よりアッシュドポンプ競合型アッシュドブロッカー：P-CAB (タケキャブ®) が除菌治療に用いられるようになったため、平成 28 年度からはその有用性の有無の検討を開始した。

平成 29 年度は、前向き検討症例を当協会などの 7 施設で除菌治療をして成否が確認された 1,310 例を、共同研究者の山崎が集計して分析した結果、VPZ 40+AMPC 1500+CAM 800 群が 97.2%と非常に高い除菌率を示したことを第 23 回日本ヘリコバクター学会学術集会のワークショップで報告した。多くの報告では CAM400mg 投与と CAM800mg 投与では除菌率に差はないことから「*H.pylori* 感染の診断と治療ガイドライン 2016 年版」では 400mg/日投与が推奨されている。それと異なる結果であったことから、平成 30 年度は当協会単独の研究責任者が関与した症例に限定して再検討した。

その結果、VPZ 40+AMPC 1500+CAM 400 の除菌率は 87.0%(188/216)、一方、VPZ 40+AMPC 1500+CAM 800 の除菌率は 91.9%(192/209)であった。当協会単独での CAM800mg 群の除菌成功率は上記の多施設共同研究成績からは有意に低い値であった (P=0.004)。有意差はなかったが CAM400mg 群より約 5%除菌率が高かった (p=0.12) ため、当協会クリニックでの治療には今後も CAM800mg を含むボノサップパック 800®を用いることとした。

平成 31 年度は、登録している当協会除菌治療全症例の成績を集計して、年度別の除菌率を再検討することを到達目標とした。

3) レーザー内視鏡を用いたヘリコバクター・ピロリ陽性慢性胃炎に対する内視鏡自動診断プログラムの開発 (継続)  
(研究本部画像病理研究室)

ヘリコバクター・ピロリ感染による慢性胃炎は、胃がんをはじめとする様々な胃疾患の原因になることが知られており、健康保険によるピロリ胃炎の内服治療が既に認可されている。本研究の目的は、内視鏡検査時におけるピロリ菌感染予測を補助する「内視鏡自動診断プログラム」を作成することである。

研究は「千葉大学フロンティア医工学センター」との共同研究で、白色光、Blue LASER Imaging (BLI)、Linked Color Imaging (LCI)の内視鏡画像データを用いた deep learning の検討である。平成 28 年度は deep learning の framework を用いて感染・未感染の 2 群の内視鏡画像分類プログラムを試作し検討した結果、*H.pylori* 感染胃診断の感度は 41.3%、特異度 95.0%、診断精度 (ROC 曲線による AUC) は 0.864 であった。平成 29 年度は数回にわたって診断プログラムを改良し、さらにレーザー内視鏡による画像強調法 (BLI, LCI) を用いたことで、感度 87.0%、特異度 95.0%、診断精度は 0.96 まで向上した。

平成 30 年度は *H.pylori* 除菌判定に役立つ事を考えて *H.pylori* 未感染・現感染・既感染の 3 分類での診断を可能にする deep learning の作成を試みた結果、診断精度は *H.pylori* 未感染 0.97、現感染 0.88、既感染 0.89 であった。この成績は、日本および欧州消化器内視鏡学会で発表し、Annals of gastroenterology 誌に英文論文として報告した。

平成 31 年度は、診断精度を向上させるために deep learning プログラムを改良し、臨床の現場で使用できる方法を検討する。

#### 4) CT コロノグラフィー検査条件の最適化（新規）

（研究本部画像病理研究室）

大腸がんの罹患率上昇に伴い、今後、大腸がん検診の増加と、それに伴う二次検査の増加が予想される。二次検査として行う画像検査として当協会では大腸内視鏡検査を行ってきたが、その実施数には限界があり、また内視鏡が困難な高齢者の増加が見込まれる。そこで当協会では X 線 CT を用いた CT コロノグラフィー（CTC）を導入した。その診断精度の向上が本研究の目的である。

平成 29 年度に事前準備を開始して、平成 30 年度から検査を開始した。CTC 施行 11 例の検討では、水分残渣、残便のために、バリウムを経口投与して残渣と病変の鑑別を容易にするにタギングが不良であったのは 9 例、良好 2 例であった。CO<sub>2</sub> ガスで大腸全域に良好な拡張が得られたのは 4 例で、残りは腸管拡張が不連続であった。

平成 31 年度は、前処置の方法やガス注入体位の検討をおこなって、更に良好な画像が得られるように改良を重ねる。

#### 5) *H.pylori* 除菌後胃癌の内視鏡診断に関する臨床的研究（継続）

（研究本部がん対策研究室）

平成 25 年に *H.pylori* 胃炎に対する除菌治療の保険診療が認可された後、胃がん検診受診者中に *H.pylori* 除菌後患者の割合が年々増加してきている。ところが、除菌後発見胃がんは診断困難な症例が多く、その発見に有用な内視鏡診断が確立されていない。一方、除菌後発見胃がん数が年々増加してきている印象はあるが実態は不明である。以上の現状を背景にして、*H.pylori* 除菌後症例の内視鏡診断において除菌後胃がんをより確実に診断するために、内視鏡診断を中心に様々な視点から研究するのが本研究の目的である。

*H.pylori* 除菌後発見胃がんの大半は、胃がんとしての特徴的な形態を示さず、さらに除菌後の背景胃粘膜の形態・色調変化が加わって、白色光観察のみでは内視鏡診断が困難であった。平成 30 年度は画像強調内視鏡観察による診断を試みたが、明確な知見は得られず、今年度以降も研究は続けていくこととした。

一方、胃がん症例の背景胃粘膜を調べた結果、現感染胃がんは平成 24 年度：68%から 29 年度：29%に漸減したのに対して、ほとんどが除菌治療後であった既感染胃がんは 21%から 64%へと漸増していた（胃と腸：53：545-552,2018）。そこで、胃炎除菌保険認可前の平成 22 年、認可直後の平成 26

年、そして直近の平成 29 年における当協会上部内視鏡受診者の *H.pylori* 感染状況の推移を検討した結果、除菌成功後患者の割合は 7→23→31%と漸増し、現感染患者は 47→24→11%と漸減していた（Gastro-Health Now 55 号：2018.11.1）。

次に同時期の胃がん症例を現感染胃がん、既感染胃がん、未感染胃がんに分けて、各年度の感染状況から算出したそれぞれの検査件数と対比することによって発生頻度を推定した。その結果は、

	<i>H.pylori</i> 感染状況別の胃がん発生頻度		
	現感染	既感染	未感染
H22 年度	1.10% (25/2273)	0.59% ( 2/ 339)	0.05% (1/2177)
H24 年度	1.07% (14/1309)	0.51% ( 7/1364)	0.07% (2/2783)
H27 年度	1.01% ( 7/ 694)	0.72% (15/2092)	0.06% (2/3550)

平成 30 年度の検討結果から、除菌患者数が近年増加してきているが、*H.pylori* 感染状態別の胃がんの発生頻度は変わらず、現感染者の 1%、既感染者の 0.5%、未感染者 0.05%に胃がんが診断された。見方を変えると、除菌治療によって胃がんの発生頻度は半減するとの貴重な結果である。更に症例を集積しての分析が必要であり、平成 31 年度も *H.pylori* 感染状態別の胃がんの発生頻度などの除菌後胃がんに関する基本的な調査を継続することにした。

6) ヘリコバクター・ピロリ菌除菌症例の胃癌発症に関する前向き調査（新規）  
（研究本部がん対策研究室）

*H.pylori* 除菌による発がん予防は特に重要な問題である。早期胃がん内視鏡治療後の 2 次胃がん発生を抑制することが日本と韓国の、慢性胃炎患者の胃がん発生抑制が中国の前向きランダム化試験で証明されているが、本邦における除菌治療の胃がん予防効果に関するエビデンスは十分とは言えない。

そこで、①日本ヘリコバクター学会主導で開始された *H.pylori* 除菌成功症例を登録して除菌による胃がんの発生率の変化を全国レベルの大規模調査で明らかにすることを目的とした共同研究に参加して、また②当協会でも経過観察されている患者の経過観察から、除菌治療の胃がん抑制効果を多方面から検証することが本研究の目的である。

日本ヘリコバクター学会が行う多施設共同研究に関しては、平成 30 年 3 月から同年 11 月までに、除菌治療成功後に全国調査登録に 49 症例をエントリーした。しかし、20 年間経過観察する総登録目標症例数は 100,000 例となっているが、全国でも約 1,500 例にすぎず、本研究の全体の進行も危惧されるところである。

そこで、当協会でも登録されていた平成 13 年から 22 年度の除菌治療成功例の経過を確認して、胃がん発生との関係を検討してみた。検討できた 124 症例について検討した結果、1 年以上経過観察がなされていた 94 例中 6 例（6.3%）に胃がんの発生を認めた。除菌後 2 年以内の診断が 3 例、それ以降

の診断が 3 例であった。少数例の検討ではあるが、除菌後の胃がん発生の実態を知る貴重な材料となると思われたので、平成 31 年度には更に症例を追加して、除菌治療から診断までの間隔と胃がんの形状の関係などの詳しい分析を行う事を計画した。

## II 個別研究事業

個別研究事業は、平成 30 年度の研究テーマは、平成 29 年からの継続のものが 3 テーマであり、新たに研究を開始したものはなく、それぞれの研究内容は次のとおりである。

なお、それぞれの研究テーマについて、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において、テーマ設定、成果等の評価を行っている。

### <研究テーマ>

#### 1) ピロリ除菌治療後のバレット上皮の進展（継続）

（榑 信廣）

平成 24～27 年度までの検討で、5 年以上の経過観察でも、内視鏡的正常胃症例からの胃がんの発生はなく、内視鏡的正常胃の約半数にバレット上皮が認められ、比較的若い年代で進行することが推測された。その検討結果から、胃の酸分泌機能が改善すると考えられている除菌治療後の患者のバレット上皮の推移についても興味を持たれるところである。その視点から、新規研究としてピロリ除菌治療後のバレット上皮の推移を中心に研究する。

平成 27、28 年の検討では、バレット上皮の進展は、男性例に多く 1/5 の症例で認められたが、年齢、酸分泌の指標となる萎縮境界との関係に一定の傾向は認めなかった。平成 29 年度の検討では、ピロリ除菌後に 3 年以上経過を観察されていた症例 99 症例中 20 例（20.2%）にバレット上皮の口側への進展を認めた。バレット上皮の進展に関与する因子の検討では、年齢、胃粘膜萎縮、また前年度にみられた性別による差は乏しかった。一方、除菌後経過期間が長い方が進展した症例が多く認められる傾向があった。しかし、明確な結果は得られず、さらに症例を集積して確認することが必要と考えた。

平成 30 年度は 5 年以上経過観察をした症例を集積していたが、その中間検討で明確な結果が得られそうになかったので、除菌治療後 10 年以上経過した症例で、かつ除菌前後の内視鏡画像が得られた症例での検討に切り替えた。10 年以上経過観察例で除菌後に明確にバレット上皮の進展を認めた症例は 28 症例中 10 例（35.7%）であった。年齢を 59 歳以下と 60 歳以上に、胃粘膜萎縮を木村・竹本分類の閉鎖型と開放型に分けて検討したが、バレット上皮進展群ではそれぞれ 6 例・4 例、5 例・5 例、一方、未変化群では 10 例・8 例、7 例・11 例と明確な傾向は認めなかった。

平成 31 年度は 10 年以上経過観察できた除菌治療後症例を更に追加して、発生頻度およびバレット上皮進展に関与する因子を、ピロリ未感染症例、現感染症例と対比検討する。

2) 内視鏡経過観察によるピロリ除菌後の胃粘膜内視鏡所見の変化に関する研究  
(継続)

(榊 信廣)

平成 26 年に公表された「胃炎の京都分類」で既感染胃の特徴として示された地図状発赤は、発見・診断が困難な除菌後胃癌の鑑別診断上も重要な内視鏡所見である。そのような理由で、同一症例の除菌治療前後の内視鏡所見の変化を経時的に観察することにより、地図状発赤を中心に除菌前後の胃粘膜の内視鏡所見の変化を検証する。

平成 29 年度は、除菌前後に経時的に胃粘膜所見の観察がなされた症例を対象に地図状発赤の出現について検討した。その結果、地図状発赤の出現頻度は 27.6% (27/98) であった。地図状発赤は除菌前に萎縮性胃炎の進展の程度が進展している症例ほど高頻度に認められたが、年齢、除菌後期間では明確な差を認めなかった。

平成 30 年度は、除菌後に胃体部に明確な地図状発赤を認めた 26 症例で、除菌治療と地図状発赤の出現との関係をみた。26 例中 4 例は除菌前から地図状発赤が認められた。その症例を除く 22 症例での検討で、12 例は除菌後 2 年以内と除菌後短期間で地図状発赤所見が認められた。除菌治療後では短期間で腸上皮化生の性状が大きく変化することを示唆する結果であった。

地図状発赤は、全例で高度萎縮粘膜例の萎縮境界部分、いわゆる中間帯粘膜部分に出現したが、地図状発赤の出現を予測させる除菌前胃粘膜の内視鏡所見については確認できなかった。そこで、平成 31 年度は、ピロリ除菌治療の時期が明確で前後に胃粘膜所見の観察がなされた症例をさらに集積して、腸上皮化生の可視化と考えられている地図状発赤の出現について、その明確な出現時期、出現を予測させる除菌前胃粘膜の内視鏡所見の検討を継続すると共に、除菌後胃がん発症と関連性を検討する。

3) 大腸ポリープの検出および鑑別について人工知能技術の開発ならびに適用に関する共同研究 (継続)

(中島寛隆)

増加傾向にある日本人の大腸がん死亡者を減少させるためには、病変の早期発見と早期治療が必要である。大腸は約 2m の長大な管腔臓器のため詳細に観察すると長い検査時間を要する。長い検査時間は患者のみならず内視鏡医の負担も大きい。大腸内視鏡検査時間を短縮しながらポリープの検出精度を向上させることができれば、内視鏡診療における貢献が大きい。この目的は、技術を確立することである。

平成 29 年度は画像解析プログラムを作成するために必要な情報を集め分析を開始する事を目標に、症例登録システムの整備を主に活動した。まず院内の研究倫理委員会へ研究内容と方法を報告し、倫理的な問題がなく研究を進める承認を得た。そして、平成 30 年度は富士フイルム製レーザー内視鏡 (LASEREO) も用いた検査を行った患者 (登録目標 200 名) を対象として、

動画と静止画像を記録して分析中である。

一方、Deep learning を用いた *H.pylori* 画像診断の共同研究（当協会共同研究 No.3）先である千葉大学フロンティア医工学センター川平研究室と、大腸ポリープの deep learning 研究についての話し合いを重ねて、下部内視鏡画像に焦点をあてた deep learning プログラムのプロトタイプを試作した。この試作は、大腸腫瘍性病変を 41 例使用して後ろ向き研究として行った。既知のがん深達度を「上皮内及び SM 微小浸潤」と「SM 深部浸潤」に 2 分類し、各症例の白色光画像を deep learning（8 層）に記憶させた。この deep learning の深達度診断精度は正診率 81.2%を示した。この研究結果は、英文論文として *Oncology* 誌に掲載された。

平成 31 年度も画像データ（白色光、Blue LASER Imaging、Linked Color Imaging）の集積を続けながら、画像解析プログラムを作成するために必要な情報を集め、競合する他施設の研究についての学会発表内容など中心に情報を収集し分析する。

### Ⅲ 各種研究会

早期消化管がんの診断技術の進歩とその普及を促進するためには、多くの研究者による多様な症例についての厳しい討論の場が不可欠である。その意味で現在、当協会がかかわっている研究会（早期胃癌研究会、大腸研究会）の役割は大きく、一層の進展に努めてきた。

#### 1 早期胃癌研究会

本研究会は、昭和 35 年に初期癌研究会として発足後 59 年を経過（昭和 39 年に早期胃癌研究会と改称）し、研究会の果たしてきた役割への高い評価と将来への期待の大きさが再認識されている。東京都を中心とした国内の大学、病院から提出される毎回平均 5 症例の X 線、内視鏡、病理検査所見について、最先端のすこぶる厳しい討論が行われた。この研究会を通じて、最新の診断技術と理論の応用と普及が図られ、胃がんを中心とする消化管がんの早期診断法及び治療法は進歩を続けている。

また、本研究会は、日本医学放射線学会から放射線科専門医更新単位取得制度学術集会として認定されている。

平成 30 年度の月例検討症例内容は、早期胃癌研究会実施明細のとおりである。

##### 1) 研究会の運営

研究会は、専門領域や地域性を考慮し選出された 52 名の運営委員により運営されている。そのうち運営幹事が運営委員長を補佐し、研究会運営を推進している。

(平成 31 年 3 月 31 日現在)

##### 【運営委員長】 1 名

山 野 泰 穂 札幌医科大学医学部 消化器内科学講座

##### 【運営幹事】 12 名

上 堂 文 也 大阪国際がんセンター 消化管内科

江 崎 幹 宏 佐賀大学医学部附属病院 光学医療診療部

小 澤 俊 文 総合犬山中央病院 消化器内科

九 嶋 亮 治 滋賀医科大学 臨床検査医学講座

蔵 原 晃 一 松山赤十字病院 胃腸センター

榊 信 廣 早期胃癌検診協会

長 浜 隆 司 千葉徳洲会病院 消化器内科 内視鏡センター

二 村 聡 福岡大学医学部 病理学講座

平 澤 大 仙台厚生病院 消化器内科

松 本 主 之 岩手医科大学医学部内科学講座 消化器内科 消化管分野

丸 山 保 彦 藤枝市立総合病院 消化器内科



八 尾 隆 史 順天堂大学大学院医学研究科 人体病理病態学

【名誉幹事】 3名

飯 田 三 雄 九州大学 名誉教授  
多 田 正 大 多田消化器クリニック  
八 尾 恒 良 佐田病院 名誉院長

【顧問】 3名

岩 下 明 徳 福岡大学筑紫病院 病理部  
下 田 忠 和 静岡県立静岡がんセンター 病理診断科  
渡 辺 英 伸 新潟大学 名誉教授

(五十音順)

2) 雑誌「胃と腸」の発行と編集委員

早期胃癌研究会において検討された症例は、編集会議を経て、雑誌「胃と腸」に掲載される。また、毎号特集する主題が選定され、主題関連論文（X線診断、内視鏡診断、病理診断など）が編集委員を中心にして執筆、掲載される。

(平成31年3月31日現在)

【編集委員長】 1名

松 本 主 之 岩手医科大学医学部内科学講座 消化器内科消化管分野

【編集委員】 24名

味 岡 洋 一 新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子・診断病理学  
入 口 陽 介 東京都がん検診センター 消化器内科  
江 頭 由太郎 大阪医科大学 病理学  
江 崎 幹 宏 佐賀大学医学部附属病院 光学医療診療部  
小 澤 俊 文 総合犬山中央病院 消化器内科  
小 野 裕 之 静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科  
小 田 丈 二 東京都がん検診センター 消化器内科  
小 山 恒 男 佐久医療センター 内視鏡内科  
海 崎 泰 治 福井県立病院 病理診断科  
九 嶋 亮 治 滋賀医科大学 臨床検査医学講座  
蔵 原 晃 一 松山赤十字病院 胃腸センター  
小 林 広 幸 福岡山王病院 消化器内科  
斉 藤 裕 輔 市立旭川病院 消化器病センター  
清 水 誠 治 大阪鉄道病院 消化器内科  
菅 井 有 岩手医科大学医学部 病理診断学講座  
竹 内 学 長岡赤十字病院 消化器内科

田中	信治	広島大学	内視鏡診療科
長南	明道	仙台厚生病院	消化器内視鏡センター
長浜	隆司	千葉徳洲会病院	消化器内科 内視鏡センター
二村	聡	福岡大学医学部	病理学講座
平澤	大	仙台厚生病院	消化器内科
松田	圭二	帝京大学医学部	外科学講座
八尾	建史	福岡大学筑紫病院	内視鏡部
山野	泰穂	札幌医科大学医学部	消化器内科学講座

(五十音順)

早期胃癌研究会実施明細（平成 30 年度）

開催年月日	例会幹事	症例提示施設	発表医師	症例
平成 30 年 4 月 25 日 出席人数/331 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	藤枝市立総合病院 消化器内科 丸山 保彦 慶應義塾大学病院 予防医療センター 岩男 泰 東邦大学医療センター大森病院 病理診断科 根本 哲生	1) 静岡県立総合病院 消化器内科 2) 藤枝市立総合病院 消化器内科 3) 松山赤十字病院 胃腸センター 4) 戸畑共立病院 消化器内科 5) 長野県立信州医療センター 消化器内科 早期胃癌研究会方式による画像プレゼンテーションの基本と応用 大阪医科大学 病理部	大津 卓也 星野 弘典 平田 敬 野田 哲裕 赤松 泰次 江頭由太郎	胃腫瘍の一例 幽門腺(～偽幽門腺)化生粘膜で腺(腺房)上皮化生を伴う分化を示す病変で胃型低異型度(超高分化腺)癌との鑑別を要する一例 A 型胃炎を背景に多発胃神経分泌腫瘍、胃腺癌に合併した胃扁平上皮癌の一例 同時多発癌で発見された発生形態の異なる早期大腸印環細胞癌の一例 厚い白苔で覆われ、生検陰性であった腸重積を伴う 1 型大腸癌の一例 「画像診断プレゼンテーションの基本手順(応用編)：組織学的再構築図の作り方」
平成 30 年 5 月 9 日 出席人数/299 名 第 57 回「胃と腸」大会 グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール 3 階 北辰	東京都がん検診センター 消化器内科 入口 陽介 がん研有明病院 下部消化管内科 斎藤 彰一 獨協医科大学埼玉医療センター 病理診断科 伴 慎一	1) がん研有明病院 下部消化管内科 2) 東京慈恵会医科大学 内視鏡科 3) 東京都がん検診センター 消化器内科 4) がん研有明病院 上部消化管内科 5) 山手メディカルセンター 消化器内科 早期胃癌研究会方式による画像プレゼンテーションの基本と応用 長岡赤十字病院 消化器内科	安江 千尋 光吉 優貴 小田 丈二 城間 翔 斎藤 聡 竹内 学	S 状結腸にみられた興味深い大腸ポリープの一例 S 状結腸にみられた発育進展を考える上で考察が必要であった一例 食道胃接合部に発生した低分化腺癌の一例 術前診断困難であった胃隆起性病変の一例 化学療法後に膵頭十二指腸切除術を行った十二指腸腸管症関連 T 細胞性リンパ腫 「(応用編)：食道(画像所見と病理所見の対比法のコツ)」
平成 30 年 6 月 13 日 出席人数/341 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	仙台厚生病院 消化器内科 平澤 大 北摂総合病院 消化器内科 佐野村 誠 大阪医科大学 病理部 江頭由太郎	1) 国立病院機構 南和歌山医療センター 消化器科 2) 千葉徳洲会病院 消化器内科 3) 小樽掖済会病院 消化器内科・健康管理センター 4) 広島大学病院 内視鏡診療科 5) 国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 早期胃癌研究会方式による画像プレゼンテーションの基本と応用 石川県立中央病院 消化器内科	木下真樹子 外山 雄三 安保 智典 住元 旭 尾石 義謙 土山 寿志	健常高齢者に発症した、粘膜橋及び巨大な偽腔形成を伴う、サイトメガロウイルス食道潰瘍の一例 特異な形態変化を来した GIST の一例 癌の範囲診断に苦慮した早期胃癌の一例 大腸進行癌の一例 虫垂印環細胞癌の一例 「(応用編)：胃(画像所見と病理所見の対比法のコツ)」
平成 30 年 7 月 27 日	中止 (台風のため)			
平成 30 年 9 月 19 日 出席人数/377 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	国立がん研究センター中央病院 内視鏡科 吉永 繁高 広島大学病院 内視鏡診療科 田中 信治 滋賀医科大学 臨床検査医学講座 九嶋 亮治	1) 大阪国際がんセンター 消化管内科 2) 岩手医科大学医学部 内科学講座 消化器内科消化管分野 3) 国立がん研究センター中央病院 内視鏡科 4) 北摂総合病院 消化器内科 5) 広島市立安佐市民病院 内視鏡内科	岩上 裕吉 川崎 啓祐 川島 一公 佐野村 誠 嶋田賢次郎	胃病変の一例 詳細な画像所見が得られた Methotrexate-associated lymphoproliferative disorder(MYX-LPD) 胃滑膜肉腫の一例 大腸 PEComa の一例 陥凹内隆起を伴った 0-IIa+IIc 型 pT1b 癌の一例

開催年月日	例会幹事	症例提示施設	発表医師	症 例
平成 30 年 11 月 21 日 出席人数/368 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	早期胃癌胃癌検診協会附属茅場町クリニック 中島 寛隆 佐賀大学医学部附属病院 光学医療診療部 江崎 幹浩 福井県立病院 病理診断科 海崎 泰治	1) 九州労災病院 消化器内科 2) 千葉徳洲会病院 消化器内科 3) がん研有明病院 上部消化管内科 4) 札幌厚生病院 胃腸内科 5) 徳島県立中央病院 消化器内科 早期胃癌研究会方式による画像プレゼンテーションの基本と応用 札幌医科大学医学部 消化器内科学講座	西嶋 健一 宇賀治良平 土方 一範 萩原 武 高橋 幸志 山野 泰穂	神経線維腫症 1 型に合併した大腸 ganglioneuromatosis (病変内に腺腫内癌を有する)の一例 術前診断が困難であった回腸末端の有茎性の濾胞性リンパ腫の一例 稀な形態をとった胃底腺型胃癌の一例 ヘリコバクターピロリ陰性 胃 MALT リンパ腫の一例 興味深い形態を呈した胃底腺型胃癌の一例 「画像所見と病理所見の対比法のコツ：真の対比は切除標本の取扱いにある」
平成 30 年 12 月 19 日 出席人数/388 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	東京都がん検診センター 消化器内科 小田 丈二 松山赤十字病院 胃腸センター 蔵原 晃一 東京都健康長寿医療センター 病理診断科 新井 富生	1) 福岡大学筑紫病院 消化器内科 2) 公立学校共済組合 中国中央病院 内科 3) 手稲溪仁会病院 消化器病センター 4) NTT 東日本札幌病院 消化器内科 5) 岐阜県総合医療センター 消化器内科 画像診断教育レクチャー 佐久医療センター 内視鏡内科	武田 輝之 三島 孝仁 須藤 豪太 吉井 新二 吉田 泰之 小山 恒男	Lymphoid stroma 様の組織構築を呈した中分化食道扁平上皮癌の一例 亜有茎性の発育を呈した胃カルチノイド腫瘍の一例 S 状結腸病変の一例 興味深い発育進展をした直腸 LST の一例 粘膜表面に露出し発赤隆起所見を呈した S 状結腸異所性子宮内膜症 「咽頭癌を発見しよう！」
平成 31 年 1 月 16 日 出席人数/382 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	千葉徳洲会病院 消化器内科 長浜 隆司 札幌医科大学医学部 消化器内科学講座 山野 泰穂 福岡大学医学部 病理学講座 二村 聡	1) 秋田赤十字病院 消化器病センター 2) 京都府立医科大学 消化器内科 3) 第一東和会病院 消化器内科 4) 千葉大学医学部附属病院 消化器内科 5) 大森赤十字病院 消化器内科 画像診断教育レクチャー 福岡山王病院 消化器内科	佐々木 真 吉田 直久 時岡 聡 沖元謙一郎 中岡 宙子 小林 広幸	横行結腸病変の一例 立ち上がり部に部分的に腫瘍性変化を認めた長径 8mm の陥凹性由来病変の一例 Russell body gastritis の一例 SMT 様隆起を呈した胃底腺型胃癌との鑑別を要した乳頭腺癌混在癌の一例 多彩な表面構造を呈した十二指腸病変の一例 「腸結核、日本の現状」
平成 31 年 3 月 20 日 出席人数/490 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	佐久医療センター 内視鏡内科 小山 恒男 福岡山王病院 消化器内科 小林 広幸 新潟大学大学院 歯科学総合研究科 分子・診断病理学 味岡 洋一	1) 札幌医科大学医学部 消化器内科学講座 2) がん研有明病院 下部消化管内科 3) 石川県立中央病院 消化器内科 4) 済生会福岡総合病院 消化器内科 5) 長岡赤十字病院 消化器内科	久保 俊之 畑森 裕之 吉田 尚弘 吉村 大輔 竹内 学	深達度診断に苦慮した S 状結腸癌の一例 上行結腸に認めた早期内分泌細胞癌の一例 食道胃接合部に発生し粘膜下腫瘍形態を呈した噴門腺過形成の一例 多発胃(偽)憩室を呈した collagenous gastritis の一例 陥凹型を呈した胃顆粒細胞腫の一例

## 2 大腸研究会

東京都を中心に国内の大学、病院から提出される症例について、X線、内視鏡、病理所見について最先端の検討、討論を行った。

この研究会を通じて、「早期大腸がんの診断能の確立と普及」という大テーマが着実に進行し、若手研究者の育成に大いに貢献している。

平成30年度の月例検討症例内容は、大腸研究会実施明細のとおりである。

(平成31年3月31日現在)

### 【代表世話人】 1名

鶴田 修 久留米大学医学部 消化器病センター

### 【世話人】 13名

味岡 洋一 新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子・診断病理学  
池上 雅博 東京慈恵会医科大学附属病院 病院病理部  
大倉 康男 PCL JAPAN 病理・細胞診センター  
河内 洋 がん研究会有明病院 病理部  
斎藤 彰一 がん研有明病院 下部消化管内科  
篠原 知明 佐久総合病院佐久医療センター 消化器内科  
高木 篤 みなと医療生活協同組合協立総合病院 内科  
津田 純郎 京都内視鏡クリニック  
富樫 一智 福島県立医科大学 会津医療センター附属病院  
小腸・大腸・肛門科  
長浜 隆司 千葉徳洲会病院 消化器内科 内視鏡センター  
濱谷 茂治 東京慈恵会医科大学 病理学講座  
久部 高司 福岡大学筑紫病院 消化器内科  
和田 祥城 紀の国会和田胃腸科医院

### 【監事】 2名

河野 弘志 聖マリア病院 消化器内科  
中島 寛隆 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック

(五十音順)

## 大腸研究会実施明細（平成 30 年度）

開催年月日	症例提示施設	発表医師	出席人数
平成 30 年 4 月 23 日	1) 佐久医療センター 消化器内科 2) 協立総合病院 消化器内科 3) がん研有明病院 下部消化管内科 4) 久留米大学 消化器病センター 5) がん研有明病院 下部消化管内科	篠原 知明 名和 晋輔 斎藤 彰一 永田 務 西川 雄祐	44 名
平成 30 年 6 月 25 日	1) 福島県立医科大学会津医療センター 小腸・大腸・肛門科 2) 協立総合病院 消化器内科 3) がん研有明病院 下部消化管内科 4) 久留米大学 消化器病センター	根本 大樹 名和 晋輔 石岡 充彬 永田 務	44 名
平成 30 年 8 月 27 日	1) 協立総合病院 消化器内科 2) 佐久医療センター 消化器内科 3) がん研有明病院 下部消化管内科 4) 久留米大学 消化器病センター	名和 晋輔 篠原 知明 乾山 光子 永田 務	45 名
平成 30 年 12 月 10 日	1) 協立総合病院 消化器内科 2) がん研有明病院 下部消化管内科	名和 晋輔 屋嘉比聖一	45 名
平成 31 年 2 月 25 日	1) 佐久医療センター 消化器内科 2) 協立総合病院 消化器内科 3) がん研有明病院 下部消化管内科 4) 久留米大学 消化器病センター	篠原 知明 名和 晋輔 西川 雄祐 永田 務	42 名

会場： 4・8 月 東京慈恵会医科大学 大学 1 号館 5 階講堂  
6 月 東京慈恵会医科大学 大学 1 号館 6 階講堂  
12・2 月 東京慈恵会医科大学 高木 2 号館 地下 1 階南講堂

## IV 研究成果の発表（下線は他施設共同研究者）

### 1 論文・著書

<原 著>

- 1) Nakashima H Kawahira H Kawachi H Sakaki N  
「Artificial intelligence diagnosis of *Helicobacter pylori* infection using blue laser imaging-bright and linked color imaging: a single-center prospective study」  
Annals of Gastroenterology 2018 Vol.31No.4 462-468  
平成30年7月

<総説・その他>

- 1) 榑 信廣 中島寛隆  
「早期胃癌検診の現状」  
胃と腸 第53巻第5号 545-552 医学書院  
平成30年5月
- 2) 榑 信廣  
「①*H.pylori* 感染の診断と治療のガイドライン ②*Helicobacter pylori* 胃炎に関する京都国際コンセンサス報告」  
消化器内視鏡 第30巻第9号 1199-1205 東京医学社  
平成30年9月
- 3) 榑 信廣  
「胃がん検診の現状と問題点」  
日本胃がん予知・診断・治療研究機構 Gastro-Health Now 第55号 1-3  
平成30年11月
- 4) 中島寛隆 河内 洋 榑 信廣  
「スキルス胃癌の内視鏡診断」  
臨床雑誌外科 81巻1号 16-21 南江堂  
平成31年1月

<著 書>

- 1) 榑 信廣  
「消化性潰瘍診療ガイドライン2015（改訂第2版）」  
今日の治療指針2019 1898-1901 医学書院  
平成31年1月

## 2 学会活動

- 1) 中島寛隆 河内 洋 榑 信廣  
「Linked Color Imaging と Deep Learning による *H. pylori* 感染の内視鏡画像診断」  
第 95 回日本消化器内視鏡学会総会 一般 東京  
平成 30 年 5 月 10 日
- 2) 榑 信廣  
「ヘリコバクター・ピロリ感染は DNA メチル化によりオートファジーを破壊させ、胃発がんを促進する」  
第 24 回日本ヘリコバクター学会学術集会 上原 *H.pylori* 最優秀賞受賞講演 司会 大分  
平成 30 年 6 月 29 日
- 3) 山本美穂  
「ザ・ベストイメージングコンテスト」  
第 78 回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部学術集会  
第 20 回超音波研修委員会 司会 栃木  
平成 30 年 9 月 2 日
- 4) 中島寛隆  
「胃 X 線検査の背景粘膜診断—胃癌組織発生や *H.pylori* 除菌治療の視点から—」  
第 78 回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会 エキスパートレクチャー I 講演 栃木  
平成 30 年 9 月 2 日
- 5) Nakashima H Kawahira H Kawachi H Sakaki N  
「Endoscopic diagnosis of *Helicobacter pylori* eradication history using linked color imaging and deep learning: A single center prospective study」  
United European Gastroenterology Week 2018 ポスター スペイン  
平成 30 年 10 月 22 日
- 6) 山本美穂  
「初心者のための腹部超音波実技講習会」  
日本消化器がん検診学会関東甲信越支部超音波研修委員会 実技指導講師  
東京  
平成 31 年 2 月 9 日



7) 中島寛隆

「検診における AI 診断の可能性について」

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部第 50 回放射線研修委員会学術集会  
講演 東京

平成 31 年 2 月 23 日

### 3 研究会・研修会活動

1) 中島寛隆

「胃がん検診の読影法—実地で役立つ技術と知識—」  
平成30年度胃がん検診読影従事者講習会 講演 東京  
平成30年8月2日

2) 中島寛隆

「胃内視鏡画像の読み方とX線、マクロの対比」  
第98回神奈川消化管撮影技術研究会 講演 神奈川  
平成30年9月15日

3) 中島寛隆

「胃内視鏡検診—実地で役立つ知識と技術—」  
第5回川口市医師会胃がん内視鏡検診研修会 講演 埼玉  
平成30年10月11日

4) 中島寛隆

「便秘診療～新時代の幕開け～」  
グーフィス錠発売記念講演会 パネリスト 東京  
平成30年10月26日

5) 中島寛隆

「6000システムの有用性とアトラス活用方法」  
第10回富士フィルムメディカル東京地区営業本部 内視鏡特約店合同研修  
会 講演 東京  
平成30年11月10日

6) 工藤 泰

「隆起型早期胃癌診断のための読影のポイント」  
第124回東京胃会 講演 東京  
平成30年11月16日

7) 山本美穂

「超音波検査技術講習会」  
全国労働衛生団体連合会 実技指導講師 東京  
平成30年11月17・18日

- 8) 榑 信廣  
「私のピロリ菌ものがたり」  
*Helicobacter* カンファレンス 2018 第 17 回東京 *Helicobacter* カンファレンス 特別講演 座長 東京  
平成 30 年 11 月 23 日
- 9) 中島寛隆  
「上部消化管内視鏡検査における 6000 シリーズの臨床的価値」  
第 8 回 BLI・LCI 東京内視鏡セミナー 講演 東京  
平成 30 年 11 月 29 日
- 10) 中島寛隆  
「LED 内視鏡システムにおける IEE 診断のポイント」  
FUJIFILM MEDICAL SEMINAR 2019 in 福岡 講演 福岡  
平成 31 年 1 月 25 日
- 11) 工藤 泰  
「胃 X 線撮影に必要な胃の病理」  
NPO 日本消化器がん検診精度管理評価機構 平成 30 年度新人向け基準撮影法講習会 講演 東京  
平成 31 年 3 月 16 日

## 4 共同研究

<原 著>

- 1) 重松 綾 中島寛隆 八巻悟郎  
「フラクタル次元を用いた *Helicobacter pylori* 感染の胃 X 線画像診断」  
日本消化器がん検診学会雑誌 第 56 巻第 5 号 609-617  
平成 30 年 9 月

- 2) Itoh T Kawahira H Nakashima H et al.  
「Endoscopic Diagnostic Support System for cT1b Colorectal Cancer  
Using Deep Learning」  
Oncology 2019 Vol.96No.1 44-50  
平成 30 年 12 月

<総説・その他>

- 1) 平澤俊明 河内 洋 藤崎順子 榊 信廣  
「*Helicobacter pylori* 未感染症例のポリープ」  
臨床消化器内科 第 33 巻第 13 号 1681-1686 日本メディカルセンター  
平成 30 年 11 月

<学会活動>

- 1) 重松 綾 中島寛隆 八巻悟郎  
「Deep Learning を用いた胃 X 線二重造影像における *H.pylori* 感染診断  
の検討」  
第 57 回日本消化器がん検診学会総会 シンポジウム 新潟  
平成 30 年 6 月 8 日
- 2) 森 英毅 鈴木秀和 小俣富美 榊 信廣 他  
「東京地区における *Helicobacter pylori* 一次・二次除菌診療、高齢者にお  
ける除菌治療の現状」  
第 24 回日本ヘリコバクター学会学術集会 ワークショップ 2 大分  
平成 30 年 6 月 30 日

## B 研修事業

### I 平成消化器懇話会の開催

地元開業医等を対象とする勉強会であり、専門医師の最新の診断や治療についての講演が聞けるということで多くの参加があり、有意義な会となった。

#### 『平成30年度第1回』

開催日：平成30年7月6日（金）

場所：早期胃癌検診協会 附属茅場町クリニック

講演者：昭和大学藤が丘病院 内視鏡センター長・准教授

山本 頼正先生

演題：「ある癌専門病院での早期胃癌内視鏡治療の変遷  
～EMRからESD、LECSまで～」

#### 『平成30年度第2回』

開催日：平成31年2月1日（金）

場所：早期胃癌検診協会 附属茅場町クリニック

講演者：埼玉医科大学国際医療センター

消化器内視鏡科 診療部長・教授 良沢 昭銘先生

演題：「胆膵内視鏡診療に必要なガイドラインの知識」

## C クリニック運営事業

### 1 検診事業

企業からの委託による従業員を対象とした健康診断をはじめとして、中央区民を対象とした区民検診、個人の方を対象とした健康診断等、さまざまな健康診断を行った。

人間ドック（日帰り半日コース）、生活習慣病検診、法定検診及び婦人科検診等の各種検診の検診受診者は 12,778 人であった。

また、企業の従業員検診については、委託企業へ出向きそこで検診を行う巡回検診にも対応しており、検診受診者は 5,101 人であった。

### 2 診療事業

地域住民、近隣事業所勤務者のほか、近隣医療機関等からの紹介により、当クリニックの受診を希望する方を対象に外来診療を行った。

診療日：月曜日～土曜日（土曜日は、第 2 及び第 4 週の午前中のみ）

診療時間：午前 9 時～午後 4 時（午前 11 時 30 分～午後 1 時を除く。）

診療科目：内科、消化器科、呼吸器専門外来、肝臓専門外来

来院数（年間延べ人数）：8,935 人

### 3 特定保健指導

特定健診においてメタボリック症候群該当者と判定された特定保健指導対象者に対して、特定保健指導を行った。

指導日：月曜日～金曜日

指導時間：午後 1 時～午後 4 時

指導内容：医師による面談、保健師による指導、行動目標及び行動計画の作成等

### 4 その他

研究のテーマを臨床面から促進するため、職域集団を対象とする集団検診及び精密検査、その後の経過管理システムの構築を進め一定の成果を上げているが、さらにデータ整備システムを補強した。

また、急増している大腸がんの早期発見技術を確立するため、引き続き大腸検査の受診率向上とその検査機能の進歩に努めた。

# 1 平成 30 年度 施設内検診件数

(単位：件)

	人間ドック	生活習慣病 検 診	法定検診	婦 人 科 検 診	計
4 月	249	344	209	0	802
5 月	321	595	187	0	1,103
6 月	519	427	258	0	1,204
7 月	591	283	231	0	1,105
8 月	628	284	233	0	1,145
9 月	506	281	313	70	1,170
10 月	662	408	470	120	1,660
11 月	588	421	294	96	1,399
12 月	429	244	169	0	842
1 月	315	179	134	0	628
2 月	398	248	234	0	880
3 月	352	204	284	0	840
計	5,558	3,918	3,016	286	12,778

\* 婦人科検診は、人間ドック、生活習慣病検診及び法定検診における婦人科オプション項目以外で乳がん、子宮がん、卵巣がん、子宮筋腫等の検査を行った件数である。

## 2 平成30年度 巡回検診件数

(単位：件)

	検 診	胃 検 診	計
4月	1,104	170	1,274
5月	0	248	248
6月	148	247	395
7月	774	263	1,037
8月	370	222	592
9月	0	288	288
10月	0	244	244
11月	0	262	262
12月	0	164	164
1月	0	177	177
2月	0	188	188
3月	0	232	232
計	2,396	2,705	5,101



### 3 平成 30 年度 外来受診者数

(単位：人)

	平成 30 年度	平成 29 年度	差 引
4 月	685	732	△47
5 月	677	713	△36
6 月	769	813	△44
7 月	777	787	△10
8 月	756	768	△12
9 月	646	757	△111
10 月	766	797	△31
11 月	814	703	111
12 月	744	781	△37
1 月	733	740	△7
2 月	759	779	△20
3 月	809	812	△3
計	8,935	9,182	△247

## 4 平成30年度 上部消化管 X線検査

### ① 目的別検査件数

(単位：件)

項 目	計	性 別		受 診 歴	
		男 性	女 性	初 回	逐 年
検 診	任意型 4,788	3,810	978	880	3,908
		(79.6%)	(20.4%)	(18.4%)	(81.6%)
対策型	2,809	2,218	591	314	2,495
		(79.0%)	(21.0%)	(11.2%)	(88.8%)
一 般 診 療	2	1	1	2	0
		(50%)	(50%)	(100%)	(0%)
計	7,599	6,029	1,570	1,196	6,403

- ・「任意型」とは、個人の死亡リスクの減少を目的とする医療機関等から任意で提供されるがん検診をいう。
- ・「対策型」とは、企業や学校等の死亡率減少を目的とする公共的な予防対策として実施されるがん検診をいう。

### ② 受診者の年齢構成

(単位：件)

年 齢	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
任意型検診	139	1,086	1,694	1,314	492	63	0	4,788
対策型検診	15	432	1,177	891	273	21	0	2,809
計	154	1,518	2,871	2,205	765	84	0	7,597

### ③ 要精検率と精検受診者率（施設内）

(単位：件)

	検診全体			初回検診群			逐年検診群		
	要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数	要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数	要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数
任意型	246	5.1%	4,788	44	5.0%	880	202	5.2%	3,908
対策型	140	5.0%	2,809	15	4.8%	314	125	5.0%	2,495
計	386	5.1%	7,597	59	4.9%	1,194	327	5.1%	6,403

- ・「要精検率」とは、検診受診者総数に対し、精密検査が必要とされた者の割合＜要精検率(%) = 要精検者数 / 受診者総数＞をいう。
- ・「精検受診率」とは、精密検査が必要とされた者のうち、実際に精密検査を受診したものの割合＜精検受診率(%) = 精検受診者数 / 要精検者数＞をいう。

④ 年齢階級別成績（検診全体）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
	受診者数	154	419	1,099	1,407	1,464	1,333	872	564	201	70	14	0	7,597
要精検者数	1	9	23	45	57	76	54	47	35	13	0	0	360	
精検受診者数	1	5	11	19	22	34	18	15	4	6	0	0	135	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	2	1	2	7	3	1	2	0	0	0	18
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	0	1	1	0	3	1	1	0	0	0	7
	その他の良性疾患	1	2	5	12	15	20	9	12	1	3	0	0	80
	異常なし	0	3	3	4	2	6	1	1	0	1	0	0	21
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	6
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

⑤ 年齢階級別成績（任意型検診 初回受診）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
	受診者数	71	96	206	149	119	104	63	37	20	14	1	0	880
要精検者数	1	3	4	6	6	6	7	5	4	2	0	0	44	
精検受診者数	1	2	2	0	2	1	1	1	0	0	0	0	10	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	その他の良性疾患	1	1	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	6
	異常なし	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥ 年齢階級別成績（任意型検診 逐年受診）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
	受診者数	68	203	581	657	769	685	462	296	139	44	4	0	3,908
要精検者数	0	3	13	23	29	40	29	32	27	7	0	0	203	
精検受診者数	0	1	3	7	3	9	5	6	4	3	0	0	41	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	1	0	0	2	1	0	2	0	0	0	6
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
	その他の良性疾患	0	0	2	4	2	6	3	4	1	1	0	0	23
	異常なし	0	1	0	2	0	1	0	1	0	1	0	0	6
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	4
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑦ 年齢階級別成績（対策型検診 初回受診）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
	受診者数	5	19	48	74	58	45	35	22	5	3	0	0	314
要精検者数	0	0	2	2	1	0	2	3	0	1	0	0	11	
精検受診者数	0	0	2	1	1	0	1	3	0	1	0	0	9	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	その他の良性疾患	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	0	0	5
	異常なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

⑧ 年齢階級別成績（対策型検診 逐年受診）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
	受診者数	10	101	264	527	518	499	312	209	37	9	9	0	2,495
要精検者数	0	3	4	14	21	30	16	7	4	3	0	0	102	
精検受診者数	0	2	4	11	16	24	11	5	0	2	0	0	75	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	0	1	2	5	2	1	0	0	0	0	11
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	3
	その他の良性疾患	0	1	2	8	11	13	5	4	0	2	0	0	46
	異常なし	0	1	2	2	2	5	1	0	0	0	0	0	13
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 5 平成 30 年度 X 線検査件数

(単位：件)

部位別検査	検診形態		検査件数
胸部	外来	31	16,721
	契約検診	11,971	
	集団検診（施設）	2,308	
	集団検診（車）	2,411	
上部消化管	外来	2	7,599
	契約検診	4,788	
	集団検診（施設）	1,716	
	集団検診（車）	1,093	
下部消化管			28
胸部 CT			880
腹部 CT			62
頭部 CT			14
マンモグラフィ			1,135
骨密度			368
内臓脂肪測定			296
計			27,103

## 6 平成30年度 内視鏡検査件数

(単位：件)

検査件数	
上部消化管	6,848
経鼻内視鏡の内訳	<1,428>
下部消化管	1,428
計	8,276
生検件数	
上部消化管	636
下部消化管	383
計	1,019
下部消化管治療件数	
大腸粘膜切除術 (EMR)	29

(単位：件)

鎮静剤使用による検査件数	
上部消化管	2,919
下部消化管	910
計	3,829

**生検件数**：内視鏡下で組織片を得るための検査件数であり、病理組織診断、ヘリコバクター・ピロリ感染診断、細菌培養同定検査を目的としている。

## 7 平成30年度 病理検査件数

(単位：件)

		施設内症例		施設外症例		計
		上部	下部	上部	下部	
組織検査	生検	642	388	—	—	1,030
	内視鏡切除	—	29	1	23	53
	外科切除	—	—	—	—	0
計		1,059		24		1,083

細胞検査	2,060
------	-------

## 8 平成30年度 がん患者数

(単位：人)

	食道がん		胃がん		大腸がん	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
～29歳						
30～34歳						
35～39歳					1	
40～44歳						
45～49歳	1		1			
50～54歳	1	1		1	1	
55～59歳			3	1	3	
60～64歳	1		3		4	1
65～69歳			5			1
70～74歳	2		1		2	
75～79歳				1		2
80歳～			1			
小計	5	1	14	3	11	4
計	6		17		15	

## 9 平成30年度 食道がん占拠部位別件数

(単位：件)

Ce	
Ut	2
Mt	4
Lt	1
Ae	
EG	
計	7

## 10 平成30年度 胃がん占拠部位

(単位：件)

	Less	Gre	Ant	Post	計
U	1	1	1	1	4
M		2	2	3	7
L	1	2	3	2	8
Other		1			1
計	2	6	6	6	20

## 11 平成30年度 大腸がん占拠部位と肉眼形態

(単位：件)

	0						1	2	3	Other	計
	Ip	Isp	Is	IIa	IIc	IIa+ IIc					
C											0
A		3		1					1		5
T											0
D											0
S	2	4						3			9
RS											0
R		2		1					1	2	6
計	2	9	0	2	0	0	0	3	2	2	20



## 12 平成 30 年度 腹部超音波検査件数

(単位：件)

		契約検診		外 来		計
		6,517		439		6,956
		男 性	女 性	男 性	女 性	
		4,966	1,551	303	136	
有 所 見  内 訳	脂肪肝	2,250	258	152	23	2,683
	肝嚢胞	1,486	418	108	64	2,076
	肝血管腫（疑い）	576	234	36	21	867
	肝腫瘍（疑い）	31	6	3	3	43
	慢性肝疾患	46	1	18	4	69
	肝硬変	10	1	6	2	19
	門脈瘤	8	0	1	0	9
	肝内石灰化	208	48	26	8	290
	胆嚢ポリープ	1,608	377	102	25	2,112
	胆石	240	54	29	8	331
	胆嚢腺筋腫症	227	67	22	9	325
	慢性胆嚢炎	2	0	0	0	2
	胆嚢壁内結石	168	30	13	3	214
	膵嚢胞	80	32	12	15	139
	膵石	12	1	1	0	14
	のう胞性膵腫瘍（疑い）	23	5	4	3	35
	充実性膵腫瘍（疑い）	10	4	2	0	16
	腎嚢胞	1,709	271	145	44	2,169
	腎結石・尿管結石	169	26	9	3	207
	水腎症	46	24	5	5	80
	腎内石灰化	1,693	366	106	42	2,207
	腎血管筋脂肪腫	54	42	5	5	106
	腎腫瘍（疑い）	8	2	2	0	12
	馬蹄腎	8	2	2	0	12
脾嚢胞	10	4	0	0	14	
脾腫瘍（疑い）	11	2	0	0	13	
副腎腫瘍	8	5	2	1	16	

### 13 平成 30 年度 乳腺超音波検査件数及び有所見者数

乳腺超音波件数	1,570 件
---------	---------

有所見 内訳

(単位：件)

内 訳	契約検診	外 来	計
乳腺症	30	1	31
乳腺腫瘤（疑い）	41	3	44
乳腺嚢胞	994	49	1,043
嚢胞内腫瘤（疑い）	0	0	0
非浸潤癌（疑い）	0	0	0
浸潤癌（疑い）	1	0	1
線維腺腫（疑い）	338	17	355
乳房脂肪腫	2	0	2
乳管拡張症	39	1	40

## 14 平成 30 年度 臨床検査件数

(単位：件)

種 別	件 数
生化学	184,711
検 尿	59,424
検 便	17,333
血 液	58,557
血清学	33,812
ウイルス (HIV)	2
細 菌	34
合 計	353,873

## 15 平成 30 年度 臨床検査別件数

(単位：件)

種 別		件 数
生化学	蛋 白	20,286
	糖	19,180
	脂 質	47,886
	酵 素	55,398
	その他	41,961
	計	184,711
検 尿		59,424
検 便	検 便	15,562
	検 便 (虫卵)	1,771
	計	17,333
血 液	血液形態学	659
	血液凝固	81
	血球計数	57,817
	計	58,557
血清学		33,812
ウイルス (HIV)		2
細 菌		34
合 計		353,873

## D 啓発事業

研究事業の成果を社会還元するため、消化器がんに対する正しい認識と早期発見のための定期検診の重要性を中心として、これからの健康管理に資するべく、がん対策の基礎知識並びに生活習慣病も含む、幅広い健康管理法について各種の啓発活動を行った。

また、同主旨のもと周辺医師会・病院・企業健康管理室等と連携し、講演会、勉強会等を通しての読影・診断 X 線（胃透視）、上部・下部内視鏡、超音波などの技術の向上と健康意識の普及に努めた。

### 1 保健指導者セミナー

開催日：平成 30 年 11 月 29 日（木）

場所：鉄鋼会館 会議室

講師：東京医科大学病院内視鏡センター長・主任教授 河合 隆

テーマ：「胃がん検診の新しい流れ」

\* セミナーの内容をまとめた冊子を作成しているところであり、今後、無料配布する予定である。

### 2 ニュースレター

消化器がんや医療機器について、わかりやすく解説したニュースレターを発行した。平成 30 年度は、次の事項を取り上げ、疾病等に関する普及啓発に努めた。

第 42 号 「肺結核について」

第 43 号 「人間ドックについて」

第 44 号 「高尿酸血症について」

第 45 号 「脳梗塞・心筋梗塞の発症リスク検査」

第 46 号 「CT 検査」

第 47 号 「大腸 CT 検査（CTC）」

## E 法人運営

### 1 評議員会・理事会の開催

#### 第22回 理事会

日 時	平成30年5月22日(火) 17時30分から
場 所	東京証券会館9階 第6会議室
出席数	理事10名、監事2名
決議事項	① 平成29年度事業報告書・計算書類等の件 ② 利益相反取引の承認の件 ③ 第7回評議員会の日時、場所及び目的である事項の件
報告事項	平成29年度資金運用実績について

#### 第7回 評議員会

日 時	平成30年6月11日(月) 18時から
場 所	東京証券会館9階 第9会議室
出席数	評議員9名、理事2名、監事1名
決議事項	① 平成29年度事業報告書・計算書類等の件 ② 評議員の選任の件 ③ 理事及び監事の選任の件

#### 第23回 理事会

日 時	平成30年6月14日(木) 18時から
場 所	東京証券会館9階 第8会議室
出席数	理事10名、監事3名
決議事項	① 理事長の選定の件
報告事項	第7回評議員会開催概要について

#### 第24回 理事会

日 時	平成30年11月6日(火) 18時から
場 所	東京証券会館9階 第6会議室
出席数	理事11名、監事3名
決議事項	① 組織の変更の件
報告事項	業務執行状況について 利益相反取引の報告について

## 第25回 理事会

日 時	平成31年3月13日(水) 18時から
場 所	東京証券会館9階 第8会議室
出席数	理事10名、監事3名
決議事項	① 平成31年度事業計画書・収支予算書の件 ② 平成31年度資金運用の方針及び運用計画の件
報告事項	業務執行状況について

### 2 研究用機器の整備

研究対象の底辺拡大とがん検診の高度化及び総合化への社会要請の変化に対応し、質・量ともに研究事業の成果の向上及び検診事業の充実を図るため、引き続き研究用機器を整備した。

- ・ X線 CT 診断装置
- ・ デジタルX線TVシステム

### 3 資金計画

機器装置、設備等の更新及び事業の実施等に必要な資金は、自己資金のほか、寄附金、賛助会費及び補助金等の援助を得て賄うとともに、計画的な執行に努めた。

### 4 法令遵守（コンプライアンス）の徹底

当協会の規程等の見直しを行い、内部統制が確実に実行できるようにした。また、職員に対して法令及び規程等を周知し、その徹底を図った。

# 平成 30 年度 計算書類等





# A 貸借対照表

平成 31 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	82,875,940	127,717,465	△ 44,841,525
未収金	60,430,935	55,502,789	4,928,146
薬品	862,051	1,590,161	△ 728,110
診療材料	53,220	30,270	22,950
貯蔵品	438,558	326,846	111,712
前払費用	10,927,165	11,018,556	△ 91,391
未収還付消費税	622,700	0	622,700
流動資産合計	156,210,569	196,186,087	△ 39,975,518
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	6,456,791	5,725,958	730,833
投資有価証券	193,543,209	194,274,042	△ 730,833
基本財産合計	200,000,000	200,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	42,149,287	37,731,412	4,417,875
減価償却引当資産	51,022,000	83,000,000	△ 31,978,000
特定資産合計	93,171,287	120,731,412	△ 27,560,125
(3) その他固定資産			
敷金	18,383,640	18,383,640	0
入居保証金	1,253,000	4,080,000	△ 2,827,000
造作設備	9,714,474	12,924,037	△ 3,209,563
什器備品	28,875,948	39,120,860	△ 10,244,912
研究機器	123,389,336	59,979,315	63,410,021
ソフトウェア	5,291,709	741,799	4,549,910
電話加入権	1,798,182	1,798,182	0
一括償却資産	340,383	400,772	△ 60,389
長期前払費用	2,058,540	1,158,110	900,430
その他固定資産合計	191,105,212	138,586,715	52,518,497
固定資産合計	484,276,499	459,318,127	24,958,372
資産合計	640,487,068	655,504,214	△ 15,017,146
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
買掛金	7,758,302	9,910,394	△ 2,152,092
未払費用	24,772,544	23,335,801	1,436,743
未払金	15,717,789	16,557,322	△ 839,533
リース債務	29,832,789	29,956,444	△ 123,655
預り金	3,383,193	3,115,876	267,317
賞与引当金	10,392,269	10,871,975	△ 479,706
未払消費税	0	7,810,800	△ 7,810,800
流動負債合計	91,856,886	101,558,612	△ 9,701,726
2. 固定負債			
役員退職慰労引当金	10,241,800	8,291,800	1,950,000
退職給付引当金	31,907,487	29,439,612	2,467,875
長期未払金	7,641,951	4,742,835	2,899,116
リース債務	97,708,995	63,166,949	34,542,046
固定負債合計	147,500,233	105,641,196	41,859,037
負債合計	239,357,119	207,199,808	32,157,311
<b>III 正味財産の部</b>			
一般正味財産	401,129,949	448,304,406	△ 47,174,457
(うち基本財産への充当額)	( 200,000,000 )	( 200,000,000 )	
正味財産合計	401,129,949	448,304,406	△ 47,174,457
負債及び正味財産合計	640,487,068	655,504,214	△ 15,017,146

## B 正味財産増減計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息	1,832,467	938,403	894,064
② 特定資産運用益			
特定資産受取利息	75,800	233,000	△ 157,200
特定資産受取配当金	235,829	222,217	13,612
③ 受取会費			
賛助会員受取会費	3,535,000	3,813,460	△ 278,460
④ 事業収益			
診断診療事業収益	590,502,861	580,161,063	10,341,798
⑤ 受取寄附金			
受取寄附金	11,545,000	14,545,000	△ 3,000,000
⑥ 雑収益			
受取利息	4,201	3,435	766
雑収益	3,050,280	2,601,301	448,979
経常収益計	610,781,438	602,517,879	8,263,559
(2) 経常費用			
① 事業費			
役員報酬	15,120,000	15,120,000	0
給料手当等	261,258,514	245,710,888	15,547,626
役員退職慰労引当金繰入額	1,260,000	1,260,000	0
退職給付費用	5,259,615	4,792,392	467,223
福利厚生費	26,465,628	27,126,323	△ 660,695
旅費交通費	416,090	514,359	△ 98,269
通信運搬費	5,341,170	5,008,708	332,462
医療材料費	29,658,418	30,325,765	△ 667,347
消耗品費	15,240,827	15,793,187	△ 552,360
修繕費	23,215,157	16,632,944	6,582,213
図書費	709,635	756,611	△ 46,976
印刷製本費	3,344,348	2,743,857	600,491
光熱水料費	3,342,683	3,632,992	△ 290,309
貸借料	82,987,618	83,241,098	△ 253,480
委託費	87,032,433	81,787,163	5,245,270
リース費	413,760	125,280	288,480
会議費	20,626	20,626	0
保険料	287,203	247,783	39,420
支払負担金	460,800	460,800	0
支払利息	648,998	466,074	182,924
支払手数料	2,283,030	1,915,295	367,735
交際費	21,660	24,500	△ 2,840
広告費	319,017	116,158	202,859
減価償却額	44,361,594	44,874,248	△ 512,654
租税公課	5,398,915	4,362,403	1,036,512
雑費	1,566,431	1,074,531	491,900

科 目	当年度	前年度	増 減
② 管理費			
役 員 報 酬	8,280,000	8,280,000	0
給 料 手 当 等	20,045,763	22,964,522	△ 2,918,759
役員退職慰労金繰入額	690,000	690,000	0
退職給付費用	795,860	1,079,780	△ 283,920
福利厚生費	3,927,237	4,426,282	△ 499,045
旅費交通費	9,073	46,773	△ 37,700
通信運搬費	56,532	110,273	△ 53,741
消耗品費	36,400	126,100	△ 89,700
修繕費	225,000	234,000	△ 9,000
光熱水料費	123,568	157,642	△ 34,074
賃借料	1,662,500	1,995,000	△ 332,500
委託費	108,000	144,000	△ 36,000
会議費	273,945	214,846	59,099
支払負担金	102,000	102,000	0
支払寄附金	105,000	55,000	50,000
交際費	0	15,000	△ 15,000
減価償却費	643,635	643,638	△ 3
顧問料	1,680,000	1,700,556	△ 20,556
租税公課	2,450	6,200	△ 3,750
雑費	0	1,798,000	△ 1,798,000
経常費用計	655,201,133	632,923,597	22,277,536
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 44,419,695	△ 30,405,718	△ 14,013,977
特定資産評価損益等	△ 100,749	△ 9,225	△ 91,524
評価損益等計	△ 100,749	△ 9,225	△ 91,524
当期経常増減額	△ 44,520,444	△ 30,414,943	△ 14,105,501
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
①固定資産売却益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
①固定資産売却損	0	0	0
②固定資産除却額			
造作設備除却額	1,721,364	0	1,721,364
研究機器除却額	932,649	5	932,644
経常外費用計	2,654,013	5	2,654,008
当期経常外増減額	△ 2,654,013	△ 5	△ 2,654,008
当期一般正味財産増減額	△ 47,174,457	△ 30,414,948	△ 16,759,509
一般正味財産期首残高	448,304,406	478,719,354	△ 30,414,948
一般正味財産期末残高	401,129,949	448,304,406	△ 47,174,457
II 指定正味財産増減の部			
(1) 一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	401,129,949	448,304,406	△ 47,174,457

## C 財務諸表に対する注記

### 1 重要な会計方針

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有有価証券	…	原価法又は償却原価法(定額法)による。
その他有価証券		
時価のあるもの	…	決算日の市場価格等に基づく時価法による。 (売却原価は移動平均法により算定する。)
時価のないもの	…	移動平均法による原価法による。

#### (2) 棚卸資産の評価方法及び評価基準

薬品、診療材料及び貯蔵品	…	最終仕入原価法による低価基準
--------------	---	----------------

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

法人税法の規定に基づく定額法による。

#### (4) 引当金の計上基準

①賞与引当金	…	財団職員の賞与に充てるため、将来の支給見込金額のうち当期の負担額を計上している。
②役員退職慰労引当金及び 退職給付引当金	…	財団役職員の自己都合退職による退職金要支給額を計上している。

#### (5) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンスリース取引で、リース開始日が会計基準適用前のものについては、改正前会計基準である通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用している。

#### (6) 消費税等の会計処理 税抜方式

### 2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
普通預金	5,725,958	730,833	0	6,456,791
投資有価証券	194,274,042	2,863	733,696	193,543,209
小 計	200,000,000	733,696	733,696	200,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	37,731,412	7,658,675	3,240,800	42,149,287
減価償却引当資産	83,000,000	100,749	32,078,749	51,022,000
小 計	120,731,412	7,759,424	35,319,549	93,171,287
合 計	320,731,412	8,493,120	36,053,245	293,171,287

### 3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
普通預金	6,456,791	0	6,456,791	—
投資有価証券	193,543,209	0	193,543,209	—
小 計	200,000,000	0	200,000,000	
特定資産				
退職給付引当資産	42,149,287	—	—	42,149,287
減価償却引当資産	51,022,000	0	51,022,000	—
小 計	93,171,287	0	51,022,000	42,149,287
合 計	293,171,287	0	251,022,000	42,149,287

### 4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
造 作 設 備	89,111,034	79,396,560	9,714,474
什 器 備 品	84,985,003	56,109,055	28,875,948
研 究 機 器	374,357,228	250,967,892	123,389,336
ソ フ ト ウ ェ ア	8,803,923	3,512,214	5,291,709
合 計	557,257,188	389,985,721	167,271,467

### 5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

(単位：円)

科 目	帳簿価額	時価 (円換算)	評価損益
三菱UFJ信託銀行株式会社社債	30,519,758	31,068,000	548,242
サ・コールドマン・サックスグループ社債	20,000,000	19,760,000	△ 240,000
ソフトバンクグループ社債	31,191,323	30,771,000	△ 420,323
三菱UFJフィナンシャルグループ社債	20,000,000	20,046,020	46,020
B P C E S . A 社債	41,383,094	40,756,000	△ 627,094
MS&ADインシュアランスグループ社債	20,318,731	20,352,000	33,269
ド イ ツ 銀 行 社 債	30,130,303	28,701,000	△ 1,429,303
三井住友フィナンシャルグループ社債	10,000,000	10,042,000	42,000
株式会社商船三井社債	8,000,000	7,973,968	△ 26,032
合 計	211,543,209	209,469,988	△ 2,073,221

### 6 引当金の増減額及びその残高

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞 与 引 当 金	10,871,975	32,714,914	33,194,620	0	10,392,269
役員退職慰労引当金	8,291,800	1,950,000	0	0	10,241,800
退職給付引当金	29,439,612	5,708,675	3,240,800	0	31,907,487
合 計	48,603,387	40,373,589	36,435,420	0	52,541,556

# D 財 産 目 録

平成 31 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額		
(流動資産)	現金預金				
	現金	手元保管	運転資金として	617,092	
	普通預金	三井住友銀行東京中央支店	〃	1,119,013	
		三井住友銀行東京中央支店	〃	23,807,409	
		三井住友銀行東京中央支店	〃	61	
		きらぼし銀行茅場町支店	〃	11,349,093	
		みずほ銀行丸の内中央支店	〃	14,325,235	
		ゆうちょ銀行	〃	170,654	
		三菱東京UFJ銀行八重洲通支店	〃	8,255,279	
		三井住友信託銀行本店営業部	〃	3,232,104	
	定期預金	三井住友信託銀行本店営業部	〃	20,000,000	
			<b>&lt;現金預金計&gt;</b>	<b>82,875,940</b>	
	未収金	社会保険報酬支払基金	公益目的事業の収入である。	9,062,024	
		伊藤忠健康保険組合	〃	7,644,240	
		東京証券業健康保険組合	〃	6,075,542	
		伊藤忠連合健康保険組合	〃	3,985,960	
		東京都国民健康保険団体連合会	〃	3,960,871	
		上記他103件	〃	29,702,298	
			<b>&lt;未収金計&gt;</b>	<b>60,430,935</b>	
	薬品	X線撮影用造影剤他		862,051	
	診療材料	X線画像用CD他		53,220	
	貯蔵品	印刷物ほか		438,558	
	前払費用	日経プラザアンドサービス	H31.4分賃借料	6,631,323	
		通勤手当	役職員の6か月分通勤費である。(H31.4~H31.9)	3,012,720	
		リース契約に関する利息	公益目的保有財産	790,449	
	北野ビル	H31.4分賃借料	241,650		
	火災保険料	公益目的保有財産	236,523		
	東京証券会館	理事会会場費	14,500		
		<b>&lt;前払費用計&gt;</b>	<b>10,927,165</b>		
未取還付消費税		平成31年度消費税還付分	622,700		
<b>流動資産合計</b>			<b>156,210,569</b>		
(固定資産)	基本財産				
	普通預金	三井住友銀行東京中央支店	運用益を公益目的事業に使用している。	6,456,791	
	投資有価証券	BPCE S.A社債	〃	41,383,094	
		ソフトバンクグループ社債	〃	31,191,323	
		三菱UFJ信託銀行社債	〃	30,519,758	
		ドイツ銀行社債	〃	30,130,303	
		MS&ADインシュアランスグループ社債	〃	20,318,731	
		ザ・ゴールドマン・サックスグループ社債	〃	20,000,000	
		三菱UFJフィナンシャルグループ社債	〃	20,000,000	
			<b>&lt;基本財産計&gt;</b>	<b>200,000,000</b>	
	特定資産	退職給付引当資産	普通預金	退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	26,629,287
			三井住友銀行東京中央支店	〃	10,000,000
			三井住友フィナンシャルグループ社債	〃	5,299,000
			トヨタ自動車株式	〃	221,000
		減価償却引当資産	普通預金		221,000
			三井住友銀行東京中央支店	〃	33,022,000
			三井住友銀行東京中央支店	公益目的事業用資産の取得資金	9,430,593
			野村証券ファンドラップ	〃	8,000,000
			高船三井社債	〃	569,407
			三井住友銀行東京中央支店	〃	569,407
				<b>&lt;特定資産計&gt;</b>	<b>93,171,287</b>
	その他固定資産	敷金	株式会社日本経済新聞社	日経茅場町ビル敷金	18,383,640
		入居保証金	北野ビル	北野ビル入居保証金	1,253,000
		造作設備	3F診察室改装工事	公益目的保有財産	2,602,000
			医局内装工事	〃	1,904,202
		3階・4階改修工事	〃	1,010,882	
		その他造作設備	〃	2,914,399	
		〃	法人会計保有財産	1,282,991	

什器備品	X線画像管理システム	公益目的保有財産	13,666,667	
	健診システム	〃	7,238,842	
	電子カルテ	〃	4,191,200	
	医療系LANケーブル工事	〃	823,334	
	Console Advance一式	〃	768,542	
	空調工事	〃	656,132	
	本館医局LANケーブル配線工事	〃	509,167	
	その他什器備品	〃	622,427	
	労務システムサーバ	法人会計保有財産	399,634	
	その他什器備品	〃	3	
	研究機器	マルチスライスCT	公益目的保有財産	49,773,250
		X線テレビ装置（胃部）3台	〃	21,730,500
		電子内視鏡及び各種内視鏡機器	〃	18,696,339
		超音波診断装置	〃	12,636,169
		乳房X線撮影装置	〃	12,218,750
		オート無散瞳眼底カメラ	〃	1,839,600
		高周波焼灼電源装置	〃	741,667
		内視鏡洗滌消毒装置 3台	〃	731,250
		エニマCo2	〃	647,076
		内視鏡診察台 2台	〃	572,220
		婦人科診察台	〃	567,273
		自動身長計付体重計	〃	525,000
		全自動血球計数器	〃	498,600
		婦人科超音波診断装置	〃	484,650
		内視鏡用炭酸ガス装置	〃	336,884
		エニマCo2ワゴン	〃	231,834
		炭酸ガス装置	〃	224,684
炭酸ガス送気装置		〃	216,750	
パルスオキシメーター		〃	176,809	
その他		〃	540,029	
〃	法人会計保有財産	2		
電話加入権	3668-6801他	公益目的保有財産	1,348,637	
	3668-6803他	法人会計保有財産	449,545	
ソフトウェア	MWM接続費用	公益目的保有財産	3,533,334	
	健診システム	〃	1,281,834	
	会計ソフト他	法人会計保有財産	292,284	
	電子カルテ	公益目的保有財産	184,257	
一括償却資産	平成28年度分	〃	5	
	平成29年度分	〃	52,000	
	平成30年度分	〃	288,378	
長期前払費用	リース契約に関する利息	〃	2,019,119	
	火災保険料	〃	39,421	
<その他固定資産計>			191,105,212	
<b>固定資産合計</b>			<b>484,276,499</b>	
<b>資産合計</b>			<b>640,487,068</b>	

(流動負債)	買掛金	メディセオ	公益目的事業の費用である。	3,656,338	
		富士フィルムメディカル	〃	1,503,113	
		リソパスティカルインス販売	〃	1,301,904	
		東邦薬品	〃	1,014,651	
		アルフレッサ	〃	164,620	
		サンメディックス	〃	69,984	
		メディエントランス	〃	32,140	
		ミナト医科学	〃	15,552	
	<b>&lt;買掛金計&gt;</b>				<b>7,758,302</b>
	未払費用	締後給料	H31.3月分	21,451,805	
		社会保険料	〃	3,130,111	
		郵便料金	〃	136,983	
		電話料金	〃	47,589	
		旅費交通費	H31.1~3月分	6,056	
	<b>&lt;未払費用計&gt;</b>				<b>24,772,544</b>
	未払金	LSIメディエンス	公益目的事業の費用である。	5,288,551	
エーゼット		〃	1,252,260		
サン・ウォッシング		〃	1,022,057		
キャノンメディカルシステムズ		〃	548,100		
キャリアシステム		〃	506,280		
荏原病院		〃	502,200		
リース残債務に関わる消費税等		〃	2,270,854		
上記他37件		〃	4,321,655		
アマノ		法人会計の費用である。	5,832		
<b>&lt;未払金計&gt;</b>				<b>15,717,789</b>	
リース債務	医療機器	公益目的事業の費用である。	20,194,545		
	什器備品	〃	9,638,244		
<b>&lt;リース債務計&gt;</b>				<b>29,832,789</b>	
預り金	源泉所得税	H31.3月分	1,590,903		
	市町村民税	〃	597,300		
	職員負担分社会保険料	〃	1,194,990		
<b>&lt;預り金計&gt;</b>				<b>3,383,193</b>	
賞与引当金	職員	職員の賞与の引当金である。	10,392,269		
<b>流動負債合計</b>			<b>91,856,886</b>		
(固定負債)	役員退職慰労引当金	役員退職慰労金の引当金である。	10,241,800		
	退職給付引当金	職員退職金の引当金である。	31,907,487		
	長期未払金	リース残債務に関わる消費税等	7,641,951		
	リース債務	医療機器	公益目的事業の費用である。	80,958,940	
什器備品		〃	16,750,055		
<b>&lt;リース債務計&gt;</b>				<b>97,708,995</b>	
<b>固定負債合計</b>			<b>147,500,233</b>		
<b>負債合計</b>			<b>239,357,119</b>		
<b>正味財産</b>			<b>401,129,949</b>		



令和元年 6 月 17 日

公益財団法人 早期胃癌検診協会 事務局

〒103-0025

東京都中央区日本橋茅場町 2 丁目 6 番 12 号

Tel. 03-3668-6803

Fax. 03-3639-5404

URL <http://www.soiken.or.jp/>

E-mail [mail@soiken.or.jp](mailto:mail@soiken.or.jp)